

世界の諸問題に関するインフォグラフィックポスターの制作

氏名： 楠本 祐介

学校名： 大阪市立第二工芸高等学校

担当教科：工業(デザイン)

実践教科： 工業 課題研究

時間数： 38 時間

対象学年： 3 年

人数： 7 名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：

ルワンダ、その周辺諸国における貧困問題や紛争問題、世界と日本との繋がり、SDGsについての学習を通じて、自身と他国の人々との関係や環境、文化などの多様性・同一性について理解を深める。

興味を持った世界の諸問題についての調査を行い、それらを他者に伝えるためのインフォグラフィックを制作する中で、国際社会が抱える多様な問題を他者に伝える能力、表現力の育成をめざす。

【2】 単元の評価 規準	(ア) 関心・意欲・態度	世界の諸問題について関心を持つことができる。
	(イ) 思考・判断・表現	他者へ伝達することを意識した表現ができ。
	(ウ) 技能	グラフィックソフトを使用し、思い通りの表現ができた。
	(エ) 知識・理解	テーマとした課題についての知識を深め、それらを他者に伝えることができた。

【3】 単元設定の理由	<p>〈生徒観〉</p> <p>本校はインテリア科・クラフト科・デザイン科の3学科、4年制の定時制高校である。様々な理由から不登校、学習面、友人関係、家庭環境など多様な課題や問題を抱えている生徒が少なくない。そういった生徒たちに広い世界の中で皆が活躍する場があることや、地球規模の問題に対し、国を超え支援・協力が必要であることを実感できる授業づくりをめざした。</p> <p>〈教材観・指導観〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う」といった課題研究の目標と合致した内容である。 ・データ(数値)だけで物事を図るのではなく、その原因や各国の現状について多面的・多角的に考え、調査し理解することで、探究的学習や深い学びにつながるよう工夫する。 <p>〈想定される生徒の変容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々な問題に対して自身の意見を持ち、他者へ伝えることのできる知識、技能の習得を期待する。
----------------	--

【4】展開計画(全 38 時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1～8 本時	<p>〈水の問題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水をめぐる問題について、ルワンダとその周辺諸国に焦点を絞り学習し、理解を深める。 ・SDGsについての学習を通して地球規模で解決すべき課題について理解を深める。 <p>〈紛争と紛争鉱物〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルワンダでのジェノサイド、隣国コンゴ民主共和国における紛争問題について学習し、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水をテーマに貧困問題や日本と国際社会(アフリカ)との繋がりについて学習する。 ○SDGsについて学習する。 ○紛争・紛争鉱物をテーマにアフリカとスマホの関係について学習する。 ・ICT機器でのスライドショーによる指導、さまざまな教材を使用し、グループでのワークショップを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A4、B2 用紙 ・世界地図 ・アフリカ地図 ・Keynote (自作スライドショー) ・20 L ポリタンク ・SDGsのアイコン ・配布プリント ・
9～18	<p>〈情報収集・整理・意見交換〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使用した情報の収集方法について学ぶ。 ・情報の信憑性を精査し、多面的に物事を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報収集 ・インターネットを使用し、必要な情報を収集する。 ○ 情報の整理 ・収集した情報をプリントに整理する。 ○ 意見交換 ・自分がテーマとする内容について発表し、他者からの意見を参考にし、制作のヒントを探る。 	<p>〈プリント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題説明 ・テーマとする問題 ・国際協力団体一覧 ・各自のテーマについて
19～36	<p>〈インフォグラフィック制作〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までに学習した知識・技能を活かし独自の表現をめざす。 ・他者へ伝達することを意識した視覚表現について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アイデアの創出 ・収集した情報をわかりやすく表現するための方法を探る。 ・アイデアスケッチを重ね、他者が理解しやすい表現を探る。 ○ 本制作 ・アイデアをもとに、グラフィックデザインソフト(Adobe Illustrator)を使用し制作を行う。 	<p>〈プリント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアの整理
37、38	<p>〈プレゼンテーション〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作した作品、制作の意図について説明をする。 ・他者の発表を聞くことにより、幅広い知識を共有し、表現方法の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ プレゼンテーション ・制作した作品、意図、表現方法について発表を行う。 ・発表者の内容を理解し、疑問点について質問する。 ・本単元での学びについての振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作物の掲示(A1) <p>〈プリント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容の整理 ・各作品をまとめたもの(A4)

【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (20分)	<p>○班分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の行きたい国」を一つ挙げて日本からの距離が近い順に並び、行きたい理由について発表を行った後、指定された席に着く。 <p>○ルワンダについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドショー(研修中の写真を用いてルワンダの現状、人々の生活について学ぶ) <p>【水の問題】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と各国の距離がわかるように地図を掲示する。 ・グループでのワークショップがしやすいよう、積極的に発言を促し、場づくりを行う。 ・実際に体感したことや感じたことをできるだけ率直に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A4 用紙 ・世界地図 ・Keynote (自作スライドショー「ルワンダ」) 【資料1】 【資料2】
展開 (340分)	<p>○20ℓの水を持ってみよう!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドショーで見たルワンダの人々と同じように、ポリタンクを実際に持って歩いてみる。 <p>○ワーク1「どのくらい水を使っているか調べてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が普段生活の中でどのくらい水を使用しているかプリントに記入する。 ・何に使う水が最も多いか、使用后1番汚れるのはどれか、などグループで話し合う。 <p>○映像資料「アイシャの1日」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エチオピアの少女の1日を知る。 <p>○ワーク2「水の問題について考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材を用いて、グループワークを行う。 ・どのような結果になったか班ごと 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に気をつける。また、無理をさせない。 ・どのくらいの距離を実際歩いているかイメージさせる。(無舗装・山道など) ・1分間の給水量などの目安を提示する。 ・自分が日常どのくらい水を使っているのか、ルワンダの農村部の人々と比べてみる。 ・なぜ水を汚すといけないのか大阪府の上下水道の現状を考える ・水をを得るための苦労、そのために失われる教育の機会について考える。 ・「学校に行く時間がない」のカードを起点にし、そこから生じる問題を考え、その問題から次の問題へとつな 	<ul style="list-style-type: none"> ・Keynote (自作スライドショー「水の問題」) ・20 ℓ ポリタンク ・プリント「どのくらい水を使っているか調べてみよう」 ・映像資料『アイシャの1日～水をを得るために～』 ・教育が受けられないことで起こる“負の連鎖”を考える ・B2 用紙

<p>※まとめ(なし)</p>	<p>に発表を行う。</p> <p>○ワーク3「日本と世界の関係について考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材を用いて、グループワークを行う。 ・気づいたこと、考えたことについて班ごとに発表を行う。 <p>○世界の課題は日本の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冊子を使用し SDGsについて学習する。 <p>○ワーク4「事象にあてはめてみよう」</p> <p>【紛争と紛争鉱物】</p> <p>○ルワンダ「ジェノサイド」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドショー(研修での写真などを用いてルワンダの歴史、難民問題について学ぶ) <p>○ワーク1「スマホについて考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホに関してのプリントに記入する。 <p>○映像資料「10年間でつくられたスマホ、71億台」</p> <p>○ワーク2「フォトランゲージ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3枚の写真についてグループで 	<p>げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的にこの連鎖は繰り返されていくことを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・カードの中からアフリカと関係のあるものを選び、関わりをグループ内で話し合う。 ・カードに描かれたものの説明が書かれている用紙を配付し、カードを地図上に貼っていく。(割合や原料なども書き込む) <ul style="list-style-type: none"> ・教材『私たちが目指す世界』を使い SDGsについて学び、世界の様々な問題に対し理解を深める。また、どのような取り組みによってそれらの課題が解決できるのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワーク2で制作した「負の連鎖」の表を使い、関わりのある SDGsを当てはめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・研修で訪問したムトボ武装・動員解除/社会復帰リソースセンターの写真からルワンダのジェノサイドの歴史について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・スマホを持って何年か、使わなくなったスマホはどうしたか、などについてプリントに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・映像から今まで生産、廃棄されたスマートフォンの実情を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・コンゴ民主共和国の「ゴリラ」「採掘場」「孤児」の写真を提示。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活とアフリカとのつながりを考える ・B2用紙 ・アフリカ大陸地図【資料3】 <p>『私たちが目指す世界』(JICA ほか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs17のアイコン【資料4】 <ul style="list-style-type: none"> ・Keynote (自作スライドショー「紛争と紛争鉱物」)【資料5】 <ul style="list-style-type: none"> ・プリント「スマホについて考えよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・映像資料『10年間でつくられたスマホ、71億台』 <ul style="list-style-type: none"> ・原料調達段階での問題「紛争鉱物をめぐ
-----------------	---	--	---

<p>意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルワンダの難民問題、コンゴの鉱物採掘の現状、紛争問題について考える。 <p>○ワーク3「新聞記事から考えてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読み、グループで意見を出し合う。 <p>○Fairphone、モバイルリサイクルについて。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源調達の持続可能性について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルワンダのジェノサイドと難民問題、鉱物採掘と紛争問題について学習する。 <p>で新聞記事を読み、紛争鉱物をめぐる国際取引について考え、意見を交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーツをアップデートできるスマホ端末やモバイルリサイクルについて学び、資源調達の持続可能性について考える。 	<p>る問題」</p> <p>【資料6】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事から知るスマホを取り巻く問題 ・新聞記事(朝日新聞 2016.8.24 朝刊)「紛争鉱物 断てぬ世界」 <p>【授業風景2】</p>
--	---	---

【授業実践の様子】



【資料1】
ルワマガナ郡・
給水スタンド



【資料2】
水の価格比較



【授業風景1】



【資料3】
アフリカとのつながり



【資料4】
負の連鎖と SDGs



【資料5】
ムトボの青年たちと

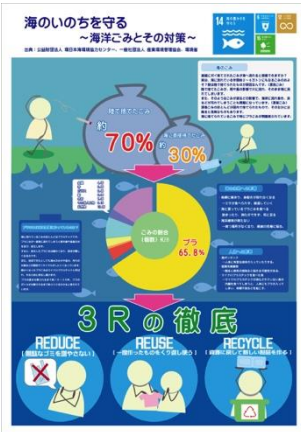


【資料6】
コンゴの紛争



【授業風景2】

〈インフォグラフィック制作〉生徒作品 (A1サイズ)



【インフォグラフィック1】

「海のいのちを守る
~海洋ごみとその対策~」

【インフォグラフィック2】

「危険・有害労働に就く子どもたち
~児童という労働力~」

【6】本時の振り返り

学習ではジェノサイドをはじめ重い内容も多かったが、グループワークで自身の想い、考えを発言する場があったことで良い雰囲気での学習できた。積極的な発言によってスムーズに指導を進めることができた。本時の学習には様々なアプローチがあると思うので、今後も教材研究を重ね、よりよい指導を模索していきたい。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

〈学習後の生徒の感想〉

- ・様々な問題については聞いたことがあったが、詳しく内容を知ることができた。
- ・プレゼンテーションで他者の作品を見ることで効果的な表現方法が理解できた。
- ・環境問題に関心を持った。(ゴミの減量、ポイ捨てしない、分別する、エコバックを持ち歩く)
- ・多くの問題は自分たちが少しでも意識して実行すれば改善されるはずだ。
- ・社会人になったら寄付や国際協力をしたい。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

(授業前)

アフリカは日本から遠い異国で、自分とは関わりはないと感じていた。

(授業後)

自分たちの生活とアフリカとの関係について知り、距離感が縮まった。
普段の会話の中で世界のニュースなどを話題にしたり、環境問題についての話をするようになった。
国際問題や環境問題、SDGsについての関心の種が着実に芽吹いたと感じる。

【8】自己評価

1. 苦勞した点	今回の研修での学びについて、どこに焦点を絞るべきかの指導に活かしきれなかった。結果として、現地で一番関心を持った「水の問題」と、教師海外研修のテーマである「平和」について取り上げたが、自身のルワンダのジェノサイドやコンゴ民主共和国における難民問題・紛争問題に関する知識習得には研修後多くの時間を要した。
2. 改善点	本時におけるワークには JICA や NGO が開発した教材を多く使用した。今後は自身の教材を制作し指導できるよう教材研究に勤しむ。 グラフィックソフトを使用した本制作においては、生徒の技術不足による作業停滞が見られた。アナログ制作とデジタル制作の両面で作業を進めるべきであった。
3. 成果が出た点	今回のインフォグラフィックの制作での成果は、生徒一人ひとりが伝える責務を持つことが出来たことである。今までの制作では他者を意識した制作ができなかった生徒も、客観的に制作物を観ることができるようになった。 また、他者の制作にも関心を持ち質問やアドバイスなどを積極的に行っている様子やプレゼンテーション後「もっとこうすればよかった」など反省点、改善点などを語っている姿に成長を感じた。
4. 備考（授業者による自由記述）	<p>本単元の他に文化祭で研修内容のパネル展示を行った。生徒はもとより、保護者、教員にも教師海外研修や JICA の取り組みが伝わった。また、文化祭クラスの取り組みではアフリカンファブリックを使った雑貨づくりを行った。生徒、保護者、教員全員が異文化の斬新なテキスタイルデザインに興味関心を持ったと感じる。</p> <p>授業実践を終え、本単元以外でも様々な場面で国際理解教育などを課題に盛り込むイメージが持てた。今後、学年を跨いだ継続的な指導や他教科・他科目との横断的な指導に取り組んでいきたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 【文化祭展示1】 【文化祭展示2】 【文化祭雑貨】 </div>

参考資料：

- ・『水から広がる学び』（DEAR 開発教育協会）
- ・『国際理解教育実践資料集』（JICA）
- ・『私たちが目指す世界』（JICA ほか）
- ・『スマホから考える 世界・わたし・SDGs』（DEAR 開発教育協会）
- ・『NATIONAL GEOGRAPHIC 2013.10』（日経ナショナル ジオグラフィック社）

- ・『NATIONAL GEOGRAPHIC 2018.6』(日経ナショナル ジオグラフィック社)
- ・『ぼくらのアフリカに戦争がなくなるのはなぜ?』小川 真吾(合同出版)
- ・『ぼくは 13 歳 職業、兵士。』小川 真吾(合同出版)
- ・『ルワンダ・ワンダフル』伊東 乾(解放出版社)
- ・『世界の美しさをひとつでも多く見つけたい』石井 光太(ポプラ社)
- ・『ルポ餓死現場で生きる』石井 光太(ちくま新書)
- ・『ぼくの村は戦場だった。』山本 美香(マガジンハウス)
- ・『アイシャの1日～水を得るために～』(日本ユニセフ協会)
<https://www.youtube.com/watch?v=PP0IvKmLfRY>
- ・『10 年間でつくられたスマホ、71 億台』(国際環境 NGO グリンピースジャパン)
<https://www.youtube.com/watch?v=Sc88ZerkgZM>